

# DEBUT 首長

奈良県天理市長 並河 健氏



なみかわ・けん 1978年大阪府箕面市生まれ。防衛大を経て2003年東大法卒、外務省入省。10年アフガニスタン支援室課長補佐。11年12月退職、翌月電通入社。12年12月の衆院選に維新の会から出馬するが高市早苗氏に敗れる。13年10月、無所属で天理市長選に出馬し当選。

## 財政再建へ施設の複合化推進 成功例作り市民の理解得る

**天理市** 奈良県北部にあり人口約6万8000人。数多くの古墳や文化財、天理教本部のある宗教文化都市として有名。

——天理市は天理教の寄付金や市内に研究開発拠点を置くシャープからの税収で潤ってきた。しかし経済環境の悪化でいずれも減少し、財政再建が急務だ。寄付金は経常収支比率の算出には含まれないものの、同比率は100%を超えている。

財政の立て直しには、市政の効率化が必要だ。まずファシリティマネジメントを徹底したい。公共施設の老朽化を機に、施設の複合化を進める。例えば公民館や学童施設、高齢者向け施設が1つの建物にあっても良いはずだ。そうすれば育児で悩む母親が経験豊富な高齢者から育児のアドバイスを受けるなど、地域のつながりを強める役割も果たすだろう。

新たに建物を建設する際にも将来を見越した計画が必要だ。市内には1000人を超す児童を抱える小学校がある。人口が急

増しプレハブを建て増してのいできたが、本格的な校舎を建設する時には、将来の子どもの減少を見越して、複合施設に変更できるような設計にしたい。

——施設を減らすには住民の理解を得ることがカギになる。

まず成功例を作ることが重要だ。民間の知恵を借りて、施設が減ってもサービスの低下にはつながらないことを示せば、住民の理解は得られると思う。公共施設の白書を作成して住民の意見を聞き、その上で施設の削減や複合化に取り組む方法もあるが、天理の場合は、そのような時間的余裕はないと思っている。やれるところから着手したい。

——財政再建には収入の確保も重要だ。

天理駅前には立派な広場があるが、広すぎて閑散としてしまっている。街の顔がこれでは観光振興もうまくいかない。来年度にはまちづくり協議会を立ち上げ、10年先をにらんだランドデザインの作成にとりかかる。最初の事業が駅前になるだろう。

市内には日本最古の道といわ

れる山<sup>やまの</sup>辺の道や、由緒ある寺社、古墳など観光資源が多い。しかし今までは観光面での情報発信が弱かった。手始めに若手職員全員が日替わりで天理の魅力を発信するフェイスブックを始めたところだ。

——天理教からの寄付金はピーク時には40億円を超えていたが、現在は10億円程度にまで減っている。

寄付金が減少しているのは確かだが、人口6万8000人の街で医療施設やスポーツ施設が充実しているのは天理教の存在が大きい。

この街には「地域のために一肌脱ぎたい」という人が多い。高齢化が進み、人と人のつながりが重要になる中で、こうした市民の意識は、今後の街づくりで大きな役割を果たす。地域のつながりをいかに街づくりに反映させるかをしっかり考えなければならない。

(聞き手は

奈良支局長 松田 隆)